



# きずな

K I Z U N A

特集  
テーマ

同和問題

未来に誇れるまちづくり



8月は

人権文化を  
すすめる  
県民運動

推進強調  
月間です。

- ② 「演技を通して愛を届ける」  
高木 万平さん(俳優)
- ③ 「差別をなくすために、顔の見える関係をつくりたい」  
白井 敏男さん(元朝日新聞論説委員)
- ④ 「芸能人の今昔」  
山路 興造さん(世界人権問題研究センター研究第二部長)
- ⑤ 「同和問題の経緯・現状と今後の課題」  
兵庫県健康福祉部人権推進課
- ⑥ 「自ら学ぶ人権学習のために」  
ライフデザインいばがわ(たつの市)
- ⑦ ふれあいサロン
- ⑧ 情報ぶらざ



兵庫県マスコット  
はばたん

# 演技を通して 愛を届ける

俳優  
高木 万平さん

同和問題は日本固有の人権問題です。同和問題に対する県民の皆さんの理解と認識は着実に定着しつつありますが、結婚問題や就職問題などの課題も残っているほか、インターネットを悪用して差別を助長する行為等、新たな問題も発生しています。

同和問題について、正しい理解と認識を深め、日常生活を人権の視点から見つめ直してみましよう。

うか。

## Q 今後の活動の抱負は。

A 今は仕事がとても楽しいです。正直なところ、自分の評判に関するネットの書き込みを読んで傷つくこともあります。悩んでいる人に勇気や愛を届けられる俳優をめざしていきます。

## Q ビデオに出演した感想は。

A ビデオでは、恋人の身元調査をしようにする両親を説得するという役柄でした。演じながら、偏見に立ち向かおうとする拓海を頼もしく思いました。ビデオでは、その後の展開はオープンエンドになっていましたが、きつと二人には明るい未来が待っていると思います。その思いを込めて、ラストには最高の笑顔を意識したんです!

## Q 同和問題の解決に向けて、私たちができることは。

A 根拠のないことに振り回されない拓海のような姿勢が大切だと思います。正しく理解することが偏見のない社会づくりの第一歩。まずは、関心を持つことから始めてはどうでしょう。

## Q 撮影の様子は。

A 高田敏江さんなど大先輩の俳優がおられて緊張しましたが、気さくに声をかけてくださり、和やかな雰囲気撮影に参加できました。撮影に関

県と人権啓発協会では、平成26年度に同和問題を取り上げた人権啓発ビデオ「あなたに伝えたいこと」を制作しました。主人公の女性の恋人、拓海役としてビデオにご出演いただいた高木万平さんにお話を伺いました。

## プロフィール

1985(昭和60)年、愛知県生まれ。スターダストプロモーション所属。『獣拳戦隊ゲキレンジャー』(2007)で知名度を高める。現在放送中のアニメ「遊☆戯☆王 ARC-V」では双子の弟、高木心平さんとともに声優に初挑戦中。



## 映画紹介

平成26年度人権啓発ビデオ

「あなたに伝えたいこと」

この物語の主人公は、ごく普通の若い女性です。物語が進む中で、彼女は、自分の祖母や母が同和問題でつらい思いをしてきたことを知ります。彼女の結婚話を中心に、恋人や友人、家族などの関わりを通して、この問題が決して他人事ではないこと、ネット上の情報だけではなく実際に人とふれあう中で、お互いを正しく知り合うことが同和問題やすべての差別をなくしていくために重要であることを、明るい希望とともに伝えます。



出演: 菅岡萌希、根岸季衣、中村育二、高田敏江、高木万平 ほか  
企画: 兵庫県、(公財)兵庫県人権啓発協会  
企画協力: 兵庫県教育委員会 製作: 東映(株)  
字幕副音声付/36分 活用ガイドあり

- 貸し出しについて  
(公財)兵庫県人権啓発協会研修部  
TEL 078(242)5355
- 購入について  
東映(株)関西営業推進室  
TEL 06(6345)9026



# 差別をなくすために、顔の見える関係をつくりたい

元朝日新聞論説委員

白井 敏男さん  
うすい としお

数年前、大阪で部落差別について講演した時のことです。講演のあと、年配の女性から「この地名が被差別部落かどうか教えてください」と言われました。女性は手に紙を持っており、紙には関西の地名が2つ書かれていました。

彼女に尋ねると、この地名は彼女の息子が交際している相手の両親の本籍でした。彼女は息子の交際相手の身元調査をしていたのです。

なぜこんなことをするのですかと聞くと、「ちゃんと身元調査をしなきゃダメよ」と知り合いに言われたんです」という答えが返ってきました。ぼくは「相手が部落出身であっても、そうでなくても、いいではないですか。こんな身元調査をすることそのものが部落差別ですよ」と言いました。「でも、気になるんです」というのが女性の答えでした。

彼女は普段から部落への偏見や差

別意識を抱いていた、というわけではないと思います。知り合いに吹き込まれて、急に身元調査を思い立ったのではないのでしょうか。

## 差別意識をまき散らすインターネット

いま、部落への偏見や差別意識を大量に吹き込んだり、まき散らしたりして、深刻なのはインターネットの世界です。インターネットでは、各地の部落探しや部落への誹謗や中傷があふれています。そこで特に心配なのは、若い人たちが部落への偏見や差別意識に染まってしまつてことです。

2002(平成14)年、同和対策事業の特別措置法が打ち切られたのを境に、国の取り組みは大きく後退しました。自治体の取り組みや学校の同和教育は地域によってばらつきが大きくなっています。いまこそ、国や自治体の啓発、学校での教育が求められてい

ると思います。

教育や啓発でなにを伝えるのか。まずは、部落の人と部落外の人は何の違いもないということだと思えます。違いがないのに、違いがあると言つて差別するのが部落差別です。部落差別は、例えば外国人やアイヌの人への差別とは異なります。外国人やアイヌの人たちと、そうでない人とは、文化や言語の違いを認め合つて共生することが大切です。

## 集団をひとつくりにしない

もうひとつ、部落差別に限らず差別は、集団をひとつくりにすることから始まると思います。差別をなくすには、個人と個人が付き合うことが大切です。一人ひとりが顔の見える関係をつくれれば、差別はできなくなると思えます。

## プロフィール

1949(昭和24)年、岡山県生まれ。1972(昭和47)年、朝日新聞社入社。論説委員、東京社会部長、論説副主幹を経て、2009(平成21)年の定年後、朝日新聞で「叛逆の時を生きて」と「差別を越えて」を連載、2010(平成22)年に退職。2013(平成25)年から中央大学経済学部客員講師。著書に『叛逆の時を生きて』(朝日新聞出版)、『部落差別をこえて』(朝日新書)。



# 芸能人の今昔

世界人権問題研究センター  
研究第二部長

山路 興造さん  
やまじ こうぞう

若者たちにとって、タレントは憧れの対象です。人権講座などで、近年まで芸能人は賤視※1の対象とされていたという話などすると、不思議そうな顔をして信じてはもらえませんでした。私の大学の先輩である俳優 小沢昭一が、1969(昭和44)年に『私は河原乞食・考』を出版し、現在でも岩波現代新書の一冊として書店に並んでいますが、今では芸能人差別などまったく過去の話になっています。

## 銀幕スターでも

昨年暮れ、「永遠の処女」として神話化されていた銀幕のスター原節子が他界したというニュースが流れました。1963(昭和38)年に引退してから、一切世間に顔を出すことのなかった女優であるだけに、若い人には知られていませんが、1920(大正9)年生まれ原節子には、戦前にオリピック選手との恋愛の噂がありました。この噂は彼女の職業が映画女優であったという理由で、男性の親族に反対されて実らなかつたと言われている。

ます。

現在では考えられないことですが、戦後まもなく、旧華族久我家の令嬢である久我美子が、東宝の女優としてデビューした時、世間の矚目※2に満ちた驚きがどれほどであったかは、小学生であった私の記憶にもあるほどですから、原節子の破談の噂ももうなげます。

## 演劇界では

芸術としての西洋演劇に身を投じた戦前の演劇人たちは、思想の弾圧などに苦しむことはありませんでしたが、1908(明治41)年に川上貞奴を長として設立された帝国劇場女優養成所では、その第一期生 森律子が、名門の高等女学校の卒業名簿から名前を抹消され、高等学校生であった弟は自殺に追い込まれています。女優という職業に志を抱いたとしても、誰でもが飛び込める職業ではなかつたのです。

その点で小林一三の率いた宝塚歌劇団は慎重でした。1913(大正2)年に宝塚歌劇養成会として開所した

当初から、尋常

小学校卒業の少女たちを社員として遇し、1919(大正8)年には私立学校の認可を受けて宝塚音楽歌劇学校を設立し、音楽学校卒業生

による歌劇団公演として良家も許す芸能人を養成したので「清く・正しく・美しく」という標語は、一部世間に存在した芸能人差別に対する裏返しだったと思います。

このように人々の意識次第で、賤視されていた芸能人もあごがれの存在にもなりえるのです。あらゆる差別についても、意識を変えることで解消することができるのではないのでしょうか。

(敬称略)

※1 見下して見ること。  
※2 不快の念を表して、顔をしかめること。

## プロフィール

1939(昭和14)年東京生まれ。早稲田大学を卒業後、民俗芸能や日本芸能史を研究するかたわら、京都市歴史資料館長として「京都市史」の編さんにたずさわる。京都嵯峨芸術大学附属博物館長・客員教授を経て、2011(平成23)年から現職。前民俗芸能学会・芸能史研究会代表。



# 同和問題の経緯・現状と今後の課題

## 兵庫県健康福祉部 人権推進課

### 同和問題とは

同和問題とは、同和地区・被差別部落などと呼ばれる地域の出身であることやそこに住んでいることを理由に、結婚を反対されたり、就職や日常生活のなかで様々な差別を受ける問題です。

日本の長い歴史の中で形づくられた身分制度のもと、江戸時代には、一部の人が武士や町民、農民などと別の身分とされ、衣食住にわたる厳しい規制や差別を受けていました。

1871(明治4)年に発布された、いわゆる「解放令」により、身分制度は廃止されましたが、現実には差別は無くなることなく、国民の一部が経済的、社会的、文化的に低い状態におかれる状況は長く続いてきました。

### 同和対策の経緯

戦後、日本国憲法が施行され「基本的な人権の尊重」「法の下の平等」の理念が普及する一方、経済成長による域内外の格差拡大などにより、この問題の解決を求める声は高まり、1965年(昭和40年)の「同和対策審議会答申」では、同和問題の解決は「国の責務であり、同時に国民的課題」であり、生活環境の整備や福祉、教育、人権擁護などを内容と

する総合的な対策がとられるべきと提言されました。この答申を受け、1969(昭和44)年に「同和対策事業特別措置法」が施行され、以来33年間にわたり国と地方公共団体が一体となって各種分野で特別対策に取り組んだ結果、様々な面で存在していた格差は住環境を中心に大きく改善され、2002(平成14)年に特別対策は終了しました。

### 意識面に残る課題(平成25年度県民意識調査の結果から)

こうした中、兵庫県が実施した意識調査を比較してみると、同和問題が生じる原因や背景として、「社会全体に残る差別意識」「家族、親戚から教えらるる偏見・差別意識」などは減少するなど、正しい理解と認識は深まりつつある一方、結婚相手がいわゆる同和地区の人であった場合の質問では、「結婚しない」との回答は5年前に比べ若干増加(15.6%→17.0%)するなど、同和問題を自らのものとして受け止めた場合の県民の意識には、未だに課題が残されていることが分かります。

### 解決を阻むさまざまな事例

#### ○インターネットの悪用などによる差別表現

近年インターネットなどで個人的に収集した、特定の地区を同和問題に関連した地区とする情報を、ネット上に流したり、「部落地名総鑑」※1と称する書籍を出版しようとしたりするなど、差別を助長させる悪質な行為が発生しています。これらは、だれが書いたかわかりにくいという匿名性を悪用し、誤った認識や差別意識を広めてしまう、表現の自由を逸脱した許されない行為です。

#### ○身元調査

2005(平成17)年に、ある行政書士が興信所等からの依頼を受けて不正に戸籍謄本等を手当てしていた事実が、また2011(平成23)年11月には、東京の司法書士等による全国規模の戸籍謄本等の不正取得事件も発覚しました。身元調査は、結婚差別や就職差別につながる行為であり、厳正な対応が必要です。

なお、このような戸籍謄本等の不正取得を防止するため「本人通知制度」※2を導入する市町が増えています。

#### ○土地差別調査等

2007(平成19)年に、大阪府において、マンション等の開発業者から調査の依頼を受けた企業が、特定の地区を「不人気地域」などの差別的表現で報告していたことが発覚しました。また、同和地区について自治体等への問合せは今も発生しています。これは偏見や差別意識が根強く残っている現れです。

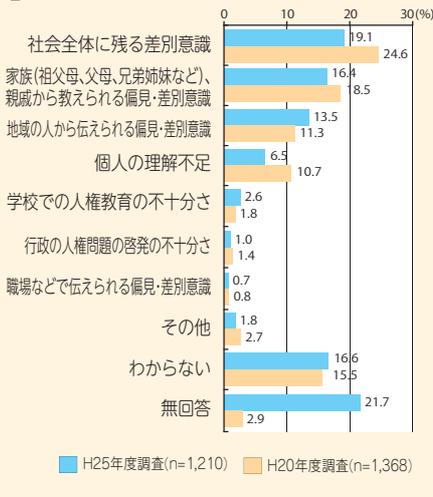
その他にも、同和問題を口実に不当に寄付を募ったり、高額な書籍を売りつけたたりする、「えせ同和行為」も発生しており、同和問題について正しく理解するとともに、不当な要求には毅然とした態度で拒否することが大切です。

#### 兵庫県の取り組み

兵庫県では県民一人ひとりが、日常生活の中で人権尊重を、態度や行動として自然なたちで表すことが文化として定着している社会をめざし、「人権文化をすすめる県民運動」を市町とともに推進することにより、同和問題をはじめ、あらゆる差別のない共生社会づくりをめざしています。さらに、同和問題に対する正しい認識と理解を深めるための教育・啓発が浸透していくよう、学校、家庭、地域、職場など様々な場において、隣保館等関係機関とも連携しながら取り組んでいきます。

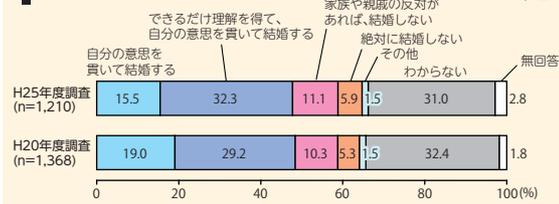
また、差別を助長するような事案に対しては、法務局と連携して適切な対応を図ります。

### 同和問題が生じる原因や背景として、あなたが一番思い当たるのは次のどれですか。(回答は1つだけ) #1



### 結婚についてお聞きします。

たとえば、あなたが結婚しようとする相手が、同和地区の人であると分かった場合、あなたはどうされますか。(回答は1つだけ) #2



#1、#2 出典：人権に関する県民意識調査(平成26年3月) 図中の「n」は、集計対象者数

※1「部落地名総鑑」…1970(昭和50)年頃発行された、全国の被差別部落とする地区の所在地などを記載した冊子。当時多くの企業が採用に関わる身元調査等を目的に購入していたことが社会問題となり、法務省が回収しました。

※2「本人通知制度」…あなたの代理人や、第三者(弁護士、司法書士等の資格を持つ人)が、あなたの戸籍謄本や住民票の写しなどを取った際、市役所や役場から通知を行うものです。この制度の利用を希望される方は、あらかじめ市役所等での登録が必要です。  
※県内では全41市町のうち36市町が導入しています。(平成28年4月1日現在)  
※第三者に交付できないようにする制度ではありません。



## 自ら学ぶ

# 人権学習のために

ライフデザイン  
いぼがわ  
(たつの市)

「ライフデザインいぼがわ」は、たつの市教育委員会と連携し、地域住民の人権課題に合った啓発・研修の資料を作成したり、人権啓発の手法を考えたりする自主的な市民グループです。

### 住民の人権学習を支援

「参加型の人権学習を提案したい」と同団体は1995(平成7)年に発足し、活動は今年で21年目になります。活動に携わるメンバーは20人。職業や性別も異なる10代から70代までの方が参加しています。

設立当初から毎年発行している人権啓発支援資料に「こころのスケッチ」があります。市の主催する人権フェスティバルや自治会の研修会で活用されてきました。

平成17年度からは、「こころのスケッチ」の内容

を劇にする取り組みを始めました。人権劇を見た人からは、「感性に響き、人権を考えるきっかけになる」と大好評です。

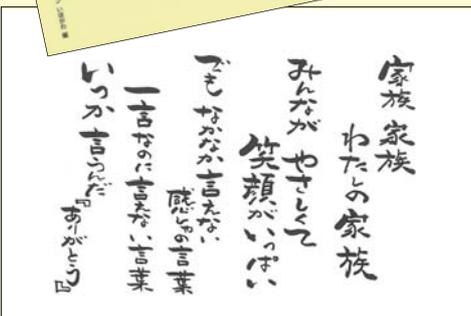
人権劇のシナリオはすべてオリジナル。劇の展開について、月に一度のミーティングで熱い議論が交わされます。「身近な話題をテーマに取り上げるので、人権をより身近に感じることができると代表の寺田敏志さんは言います。

最近では、DVDに記録したこの人権劇を視聴した後で学習を深められるように、「こころのスケッチ」の内容に工夫を重ねています。

### つながりを大切に

他には、子どもたちの素直な思いを綴った詩集を発行しています。昨年のテーマは、「家族」。市内の小中学生を中心に、心あたたまる作品がたくさん集まりました。詩は、シンガーソングライターに曲を付けていただいたり、ラジオ番組で紹介していただいたりして多くの方々に届けられています。

「家族」をテーマにして募集するのは、実は2度目。前回募集した10年前の作品と比べると、「家族、特に父親とのつながりが希薄になってきているのでは」と寺田さんは感じています。「人々の価値観が多様化し、人権課題は複雑化している。こんな時こそ、老若男女が気軽につどい、意見交換できる場が大切」と話します。同団体では、寺田さんの息子さんをはじめ若い人の参加もあります。人権を大切にしたいという思いは、世代を越えて広がりを見せています。



(上) 詩集「家族II」。掲載する作品は、すべて寺田さんの手書き。原稿は掲載者にプレゼントして喜ばれています。



人権を考える市民の集い

前身は、揖保川町人権啓発推進協議会企画委員会。平成10年に改称して活動。地域の団体やPTAなどと連携を深めながら活動を進めている。事務局は、たつの市教育委員会人権教育推進課内

TEL 0791(64)3182 FAX 0791(63)3883



# ふれあいサロン

## 読者からのお便り

I型糖尿病についての記事を興味深く読みました。駅伝を見るのが好きなこともあり、中新井さんの名前を覚えていました。同じ病気で悩んでいる方へメッセージを届けるため、バンドを結成して積極的に取り組んでおられることに感動しました。

(小野市・井上静子さん)



薄い冊子に現在の注目すべき問題などがびっしり詰まっていると思いました。

(たつの市・東角紀世子さん)



「きずな」はお気に入りです！！中でも、6月号の「輝く女性にインタビュー」にエールを送ります。毎月楽しみにしています。

(神戸市・上田寿子さん)



## 問 A～Iの文字を順番に並べると、何という言葉になるでしょう？

1			2		3	4
A					F	
		5			6	
					H	
7				8		
				9	10	
	I					G
		11		12		
		E				
13				14	15	16
	B				D	
17				18		
						C

## 〇〇 たてのカギ

- 夏の午後から夕方にかけてにわかに関り出すどしゃぶりの雨
- 夏の強い日光をさえぎるために頭上にかざします
- クロコダイルやアリゲーターなどの種類があります
- 海に面していること。「〇〇〇〇学校」
- 人権ジャーナル「きずな」を発行しているのは兵庫県と兵庫県人権〇〇〇〇協会です
- 同じ教室で学ぶ生徒の集まり。「1年1〇〇」の仲間たち
- 「〇〇あれば苦あり、苦あれば〇〇あり」
- 嬉しさのあまりに流すこともあります
- 美しくすること。「町内の〇〇に努める」
- 昆虫のさなぎが成虫になること
- 「〇〇と人情の板ばさみ」
- 相手をいつくしむ心。「〇〇の手を差し伸べる」

## 〇〇 よこのカギ

- 将来実現させたい願い。「大きな〇〇を持って努力する」
- 夏の花と言えばこれですね
- 不注意で〇〇などしないよう気を付けましょう
- 「〇〇の一字」で耐え忍ぶ
- 困難な状況を克服するための手段
- これからやってくる時間。「〇〇〇を担う青少年」
- 一日の最高気温が摂氏25度以上になる日
- 夏本番、〇〇へ山へ出かけましょう
- 事件や問題を解決するための重要な手がかり
- 庭や公園などできれいな花が咲き誇っているところ
- 研修や教育を通じて同和問題への正しい〇〇〇を深めたい

6月号の答え ナツ フク ニ コ ロ モ ガ エ

## 投稿&クロスワードで「オリジナルカードケース」をプレゼント！！

「読者からのお便り」の投稿掲載者(平成28年10月号)とクロスワードの正解者(抽選で10名)に、「オリジナルカードケース」をプレゼント。本誌「きずな」へのご意見やご感想、人々とのふれあいを通じた心温まるエピソードなどを募集しています。どしどしご投稿、ご応募ください。\*投稿はペンネームの使用も可能です。\*当選者の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。

**応募方法 締め切り** はがき、FAX、メールで受け付け。クロスワードの答え、郵便番号・住所、名前(ペンネーム)を使用の場合も併記、電話番号、年齢、職業、本誌へのご意見・ご感想を明記の上、ご応募ください。9月2日(金)締め切り(必着)

**応募先** 〒650-0003 神戸市中央区山本通4丁目22番15号 県立のじぎく会館内(公財)兵庫県人権啓発協会「きずな」ふれあいサロン係

TEL:078(242)5355 FAX:078(242)5360 Eメール:info@hyogo-jinken.or.jp

\*応募者および投稿者の個人情報、管理を適切に行い、誌面づくり以外の目的には利用いたしません。



# ひょうご・ヒューマン フェスティバル2016

入場  
無料

inあこう を開催

**日時** 8月20日(土) 9:30~15:30

**場所** 赤穂市文化会館(ハーモニーホール)  
赤穂市中広864番地 0791(43)5111  
**TEL** 赤穂市総合福祉会館(赤穂市文化会館南隣り)  
赤穂市中広267番地 0791(42)1397

**アクセス** ・JR播州赤穂駅より徒歩東南へ10分  
・山陽自動車道赤穂ICより自動車10分

**対象** どなたでも参加できます

## 問い合わせ先

(公財)兵庫県人権啓発協会 県立のじぎく会館内 **TEL.078(242)5355 FAX.078(242)5360**

### 【赤穂市文化会館(ハーモニーホール)】

- 人権講演会「あなたは宝物!自分らしく生きよう!」  
露の団姫さん(落語家・僧侶)
- 地元団体によるふれあいステージ  
和太鼓・獅子舞・ハーモニカ
- ステージショー「それいけ!アンパンマン ショー」
- 人権ユニバーサル事業  
サウンドテーブルテニス体験、車いす体験、知的障害疑似体験
- 子ども多文化共生イベント



### 【赤穂市総合福祉会館】

- 人形劇 ■ 皮革焼きコテ アート体験 ■ シカ肉料理試食コーナー
- ヒューマンシネマ ■ 人権なんでも相談

\*他に、福祉団体によるクッキー、野菜等の販売など盛りだくさん。



©INAC KOBE (Photo By T.INOUE)  
**INAC神戸レオネッサ**

わたしたちも  
“人権文化をすすめる県民運動”を  
応援しています!



©阪神タイガース  
**HANSHIN Tigers**

## イベントガイド

<p><b>多可町</b> 人権文化をすすめる 「多可町民の集い」</p>	<p><b>日時</b> 8月18日(木) 19:30~21:00 <b>場所</b> ベルディーホール(多可町文化会館) ※JR「西脇市」駅から神姫バス「多可町役場」下車徒歩約5分 <b>演題:</b> 障害があるのは私たちの社会や制度 ~障害者差別解消法の目指すもの~ ●講師: 関西福祉大学社会福祉学部 准教授 谷口泰司さん ※無料、申し込み不要、手話通訳・要約筆記あり</p>	<p><b>問い合わせ</b> 多可町人権啓発推進室 <b>TEL 0795(32)1389</b> <b>FAX 0795(32)1389</b></p>
<p><b>三木市</b> 市民じんけんの集い</p>	<p><b>日時</b> 8月21日(日) 13:30~16:15 <b>場所</b> 三木市文化会館 ※神戸電鉄「厚比須」駅下車徒歩約15分 <b>市民運動作品優秀賞の表彰、人権作文朗読、市民によるじんけんメッセージ朗読</b> <b>演題:</b> ファッションモデルよりも車椅子の今が幸せに思う理由 ●講師: 鈴木ひとみさん(ユニバーサルデザイン啓発講師)</p>	<p><b>問い合わせ</b> 三木市市民ふれあい部人権推進課 <b>TEL 0794(82)8388</b> <b>FAX 0794(82)8658</b></p>

ラジオ関西「谷五郎のところにきくラジオ」(毎週月曜10:00~15:00)で、  
14:35頃からきずなの記事を紹介しています。

## 人権に関する川柳を募集します!

いずれかのテーマに当てはまる川柳を募集します。  
優秀作品は「きずな」に掲載し、オリジナルクリアファイルをプレゼント。

**募集テーマ** 職場、ネット社会、障害のある人

**応募方法** はがき、FAX、メールで受け付け。  
郵便番号、住所、名前(ペンネームの場合も併記)、年齢を明記のうえ、ご応募ください。応募は各テーマお1人1点とします。9月2日(金)締め切り。

インターネット上を含む未発表・未投稿の自作の作品に限ります。

**応募先** (公財)兵庫県人権啓発協会(下記参照)



人権啓発ビデオ「あなたに伝えたいこと」に出演した、俳優の高木万平さんにインタビューしました。撮影に臨むにあたって、改めて同和問題の現状について勉強されたそうです。撮影のエピソードなどを聞くと、俳優やスタッフが人権啓発のために、一丸となって撮影に取り組まれたことが分かりました。ラストシーンでは、「差別のない明るい未来を思いながら、とびっきりの笑顔で演じた」との言葉を聞いて感動。改めてビデオを見返してみると、高木さんの思いがより伝わってくるように感じました。「同和問題を解決したい」という関係者の思いが詰まったビデオを研修などでぜひご活用ください。(小池)

「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。